

鹿島市総合教育戦略会議（第20回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成31年2月13日（水）13時28分から14時50分まで

2 開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、中村教育委員会教育長、池田教育委員会委員、岡田教育委員会委員、木原教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、有森総務部長、有森市民部長、染川福祉課長、田崎企画財政課長、中島総務課長、事務局（総務課職員 山口課長補佐、堀係長）
- ・教育委員会部局 寺山教育次長兼教育総務課長、岡指導主事、高本課長補佐
- ・傍聴者 なし

4 確認事項及び協議事項等

確認事項

第19回鹿島市総合教育戦略会議（H30.7.10）の議事録について

- ・議事録素案の内容を確認

協議事項

- (1) 総合教育戦略会議のこれまでの取り組みについて
- (2) 教職員の多忙化の解消に向けた具体的な施策の進捗状況について
- (3) 第19回会議において校長先生から提案されたアイデア・要望について

その他

- 5 出席者の発言のとおり

5 出席者の発言

司会：有森総務部長

1 開会（有森総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 今どこの家庭でも、子ども達をテーマにした話といえば、最近の事件で小学生の女の子がお父さんから命を奪われたという話題になっているだろうと思います。教職員の多忙化についても頭に置きながら、今一番関心をもたれていることも含めて議論をしていきたい。例えば先生達が気付かなかっただろうか。手が回らないほどに多忙なのだろうかというアプローチで取り上げてもらいたいと思います。

3 確認事項

第19回鹿島市総合教育戦略会議（H30.7.10）の議事録について 議事録（素案）の内容確認

4 協議事項

（議長＝樋口市長からの問題提起）

小学生の虐待の事件について、国会でも問題になっています。この件について議論を進めていきます。今回の家庭内の暴力事件と親子の関係というのは、学校との関係ではどういう風に理解されているのか、ということです。例えば、家庭の問題と割り切るのか、児童相談所が悪いという話があるとか、いやいや児童相談所と教育委員会が連絡してないから悪いんだという、いろんなことあると思いますが、どういう風に我々も理解していかなければならないかと。鹿島でまさかのことですが、無いようにしなければならぬので、一番気になるのはそこです。ああいう事があつたときにどうやって対応するということについて、仮にあんなことが今日起こったときどうするか。あるいは起こらないようにどうするかというシステムの話をしていきたいと思います。

【関係機関の横の連携】

- ・ ケースバイケースではあるが、虐待疑いなど市に通報があった場合、すぐに連絡を児童相談所の方にしている。そして、児童相談所と相談しながら今後の対策を打っていくということになる。警察には児童相談所から連絡が行く。警察との連携というのにも必要になってくる。
- ・ 専門的な問題で、児童福祉司の経験とか専門的な知識が必要になってきているので、そこは躊躇せず相談するというのが一番だと考えている。
- ・ 本市における年間の相談件数は、H29年度の1年間で約100件。
- ・ 児童相談所で保護の措置をとったり、年に6回児童相談所を含めた会議を開催したりしており、軽微な案件については要経過観察ということで、会議の中で経過を報告している。
- ・（要観察とは？誰が観察する？）要保護者等対策地域協議会という組織を立ち上げており、その中に児童対策部会というものを設置している。そこに、福祉課からは家庭相談員、母子相談員、DV相談員が入っている。更にその部会の中に、児童相談所とか警察、保険健康課、教育委員会も入っている。関係者が集まった中で、その子の状況を情報共有しながら、例えば保護が必要かどうかという対策を検討している。
- ・ 身体的虐待の事例としては、子どもが負傷して一時保護となるとか、心理的虐待

としては、子どもの目前で父親が母親に暴力を振るうとか、ネグレクトの場合は、子どもを深夜まで外出し、登校も遅れがちになるなどの事例がある。

- 身体的虐待の対応例。以前から父親からの虐待が疑われていた家庭であり、何かあったら市の福祉課に連絡し、鹿島署の生活安全課に連絡が行くようになっていたので、すぐに福祉課に校長が連絡した。その後、福祉課の職員が学校に来校され、事情を聴き、福祉課から鹿島署に連絡をし、鹿島署の生活安全課が本人から事情を聴いた。児童相談所には校長が連絡した。児童相談所は緊急対応することになり一時保護の決定をすぐに下された。
- やはり、日頃からの関係機関の横の連携が一番大切。鹿島市でもいつそういうことがあってもおかしくないなので、縦割りではなく横の連携が必要だ。
- 学校と福祉課の特に家庭児童相談員とは常に連絡を取っているし、何かあったら児童相談所から学校に連絡があるということになっている。
- （連携はとれているか。）先ほど100件と言ったのは、あくまで相談件数。このうち実際に虐待に絞れば半数以下。さらにその内訳は、家族からが約半分、ほかに保育所や学校からもある。特に学校については、福祉課の家庭相談員が教員OBなので相談しやすいというのものもある。校長先生からの連絡も、まだ虐待の前の段階から相談を受けているようなので、ある程度横の連携は取れていると考えている。
- （虐待の通告は、増えている？）ここ数年、ほぼ横ばいというところ。
- 実際の問題が起こったときの横の連携は取れていると思う。しかし、現在進行形で、問題を抱えている事例についても情報共有をした方がいい。
- 虐待は4種類あって、今、ネグレクトが多いんじゃないかと思う。
- 要保護者等対策地域協議会の中に要保護児童対策部会というのがあって、それが年6回、2か月に1回開催している。一人ひとりの事例を時系列で説明したあとに、この家庭にはどういう対処がいいのか、児童相談所からのアプローチなのか、警察からのアプローチなのかというのを部会の中で話をして、次のステップをどうしようかという話をしている。個々のケースの対応になる。
- 先ほど話した虐待の話は、この部会ですでに報告がされていて、普通は学校から連絡がきたときに、すぐに警察と児童相談所、福祉課がいつべんに動くことは無いだろうが、この会議の中で、前の年に話ができていたおかげで、パッとすぐに動けたのだと思う。
- ある程度心配な家庭を部会の中で押さえているので、全く知らなかった家庭で起こるとするのは、鹿島市ではないのではないかと思う。
- 100件相談があったということで、捉え方として、たくさん相談をしていただき、早期発見ができるという意味ではいいことだと思う。市民の方に関心をもって

いただくというということも大切。

- ・（近所からの通報などに対してどこまでできるのか。）福祉課には、児童相談所のような権限はないが、職員が玄関先で話しに行ったりしている。無理やりに家に上がりこむということはできない。
- ・（学校が行う家庭訪問の意味合いは？）1年担任していても、めったに保護者とゆっくり話す機会もないので、お宅を訪問して、家庭のいろんなことを話してもらうということと、実際に訪問することで、いろんな気付きを感じ取るというところ。やはり、早い時期に保護者とお会いした方がいいと思う。

【学力・部活動について】

- ・（塾と学校について、学力を上げさせたいなら塾にやれば、という声があるが。）塾にいかなくても、学校で先生が全部教えると言っている。それでも塾に行く子は行くのだが。教員としては子ども達の学力保障というのが第一なので、力を付けさせなければいけないと思っている。そういう風な声があるということは、教員の方も反省しなければいけないことだと思う。
- ・（学力を上げたいグループとそうでないグループとをクラス分けで分けることが可能か？）数学とか英語とかのTTの場合に、一つのクラスを習熟度別に分けて授業をすることはある。しかし、クラスそのものを学力や進路別で分けることはしていない。
- ・部活動について、先生自身がやってきた競技や、本当に自分が好きな競技であって、やる気をもって達成感をもってやっている先生もいるし、あるいは自分の専門以外の人は、そうでない場合もあると思う。
- ・部活動は、県・市・各学校も平成30年4月から部活動の休養日の完全実施をやっている。そのため、これまでよりも若干多忙感については解消ができていると思う。
- ・学力・学習状況調査は一つの指標。点数が取れるのに越したことはないが、都道府県ごとに比較して、平均点の1～2点の差はたいしたことではないと思う。小学校はなんとなく維持しているが、中学校の伸びが無いというのが鹿島の状況。
- ・最近鹿島市内の中学校から、ちょっと優秀な子は例えば佐賀西高とか、私立の高校など、他所に出ていくケースが目立ってきた。
- ・ビッグデータで、鹿島で生まれて鹿島の小学校を卒業した子がどういう人生を歩んでいってというようなデータを全部とって、それを平均しないと、鹿島の風土というようなものがわからなくなってしまう。
- ・県知事も、人材供給県になってしまうと危惧されている。

- ・ もし、自分の教え子が将来どういう風になって、というのがデータ化されてというのがあれば、励みになると思う。

【教員の多忙化対策など】

- ・ 来年度、校納金システムを導入し、集金を各口座引き落としに変更する。現金を先生が扱わなくてよくなる。来年度秋口の稼働を目処に進めている。学校で現金を扱うことが少なくなるので、足りない、落とした、無くしたということが減るので、先生の気苦勞的なものは減る。
- ・ 学校の英語の教科化に伴い、アシスタントを入れて、サポートにまわっていただくと考えている。予定では、西部地区の小学校には、英語の先生の加配がつく予定なので、アシスタントには、東部地区を重点的に回っていただく予定。
- ・ 部活動指導員は現状東部中に2名だが、1名増員したい。東部中はソフトテニスとソフトボール、今回新たに西部中に卓球の指導員をお願いしたいと考えている。

(1 4 : 5 0)